

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000072
法人名	有限会社エイブラスアール
事業所名	ゲループホームカサランカ八木
所在地	兵庫県明石市大久保町八木642-6
自己評価作成日	令和5年10月19日
評価結果市町村 受理日	令和5年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和5年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設はコンパクトに設計されていますが、フロア全体に職員の目が行き届き安心感があると利用者様、家族様に好評を頂いております。利用者様の日々の変化を見落とさないよう細心の注意を払い、介護保険法によるプランに基づく明確な目標を設定し、職員全体がチームとなり目標を達成できるよう支援しています。毎月のミーティング及び日々の申し送りにより、利用者様の日々の変化や意向の確認が全職員に共有でき、支援の変更もスムーズに行えています。毎月のお便りの発信等により、本人様と家族様の関係性もより保たれ不安軽減に繋がっています。

【第三者評価で確認した事業所の優れた点、工夫点(評価機関記入)】

【優れた点】海外(バトナム)技能実習生の受け入れへの取り組み。
【工夫点】行事計画への取り組み:夏祭りでは利用者様全員で浴衣を着て楽しく過ごしましたその様子は、お便りにて家族様にも見ていただきました。グループホーム介護部会定期会へ参加し業務の課題解決にむけ情報収集に努めている。提携医との連携:24時間オンコール体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者ど職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己評価	第三者	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービス の意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎日唱和することで職員に意識づけをしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を目立つ所に掲示し、毎日唱和して職員への意識付けをしている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において事務所の運営推進会議、お祭り等のイベント等が中止になる。R5年から地域のイベント(祭り)での交流等、少しずつ再開している。	コロナ禍において事務所の運営推進会議やお祭り等のイベント等が中止になる中、R5年から地域の祭り等での交流を少しずつ再開している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにてイベント等がなくなるが、庭の畑などの手入れ相談など地域の方に関わって頂く。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においては会議ではなく、家族様に施設でのイベントの様子の写真など、報告書を送付している。	コロナ禍において事務所の運営推進会議やお祭り等のイベント等が中止になる中、R5年から地域の祭り等での交流を少しずつ再開している。	運営推進会議で事故やヒヤリハット数の記載が見られない、事故数はヒヤリハット数はアの表示を目立つ場所に掲げ職員の意識を高める工夫が望まれる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や連絡し、日頃から関わりを持ち分からない事等連絡を取り相談している。	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、分からない事等連絡を取り相談している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例を具体的に掲示し、ミーティングで何度も話し合い、時には運営推進会議にも提示意見交換を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアで禁止の対象となる具体的な行為を掲示し、ミーティングで何度も話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。			
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員で情報共有を行い虐待防止に努めている。気になったケースやTV等で耳や目にしたケース等、ミーティング等で話し合っている。社内研修を随時行っている。虐待行為を疑われる職員とは面談を行っている。	職員で情報共有を行い虐待防止に努め、気になったケースやTV等で耳や目にしたケース等、ミーティング等で話し合っている。社内研修を随時行い、虐待行為を疑われる職員とは面談を行っている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価
		実践状況	実践状況	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある利用者様には活用できるよう、市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援している。社内会議、ミーティング等でその内容について研修をする準備を進めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要のある利用者様には活用できるよう、市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援している。	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って説明を行っている。施設側で出来る事、家族様にお願する事を明確に、また料金についても十分に説明を行うようにしている。解約時や外泊時の注意点等も説明を行っている。	契約の締結、解約又はや改定等の際は、重要事項説明書に沿って説明を行っている。施設側で出来る事、家族様にお願する事を明確に、また料金についても十分に説明を行うようにしている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様ご家族と連絡を取っている。意見・要望は何かあればすぐ寄せられる。ミーティングで共有し、反映させている。ご意見箱の設置。運営推進会議は中止しているが、家族様にはお便りなどで状態のお知らせをしている。	日頃から利用者様ご家族と連絡を取り、意見・要望は何かあればすぐ寄せられ、ミーティングで共有し、反映させている。又意見箱の設置、運営推進会議は中止しているが、家族様にはお便りなどで状態のお知らせをしている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は普段からミーティング等で報告し、順次反映させている。	運営に関する職員意見の反映では、意見や提案は普段からミーティング等で報告し、順次反映させている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面接、相談の機会を設け、努力を認めたり悩みが出せるようにしている。向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍に置いて外部の研修などはなかなかたが、コロナ発生時の備えとして防護服の着衣の仕方を職員全員で周知するようしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム介護部会定例会、大久保地区在宅サービスゾーン協議会等、コロナ禍はウエブでの参加が多かったが、今年に入り対面で参加し、同業者や地域の人々、医療関係者、保険者と交流しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己 第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	不安や要望に耳を傾け、ゆつくりと話しをする機会を持つようになっている。環境の変化に配慮し、安心が確保できるよう努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	入所に至った経緯やそれまでの背景をお聞きし、家族様の思いに耳を傾け、家族様が安心できるように信頼関係を築いている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのかを考え、ご本人にとって本当に必要なサービスであるか見極めるように努めている。その中で他のサービス利用も視野に入れた対応をするように努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらったり、家事を手伝ってもらうなど、本人の能力が生かせる機会を作り、人生の先輩として知恵をお借りする関係を築いている。			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や本人の気持ちを家族にお伝えし、情報を共有して共に支えられるように努めている。また、様子をお伝えするお便りも毎月出している。R5年よりメール対応もすることもできるようになった。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や外出を通して、これまでの馴染みの関係が途切れないように努めている。コロナ禍はウエブ面会を行う。			
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の顔が見えるよう座席を配置し、関わり合い、会話等が弾む為の橋渡しをして支援している。トラブルが起きないよう関係を把握し、席替えをするなど調整に努めている。コロナ禍はアクリルボードを設置する事が多くなっていった。			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談や近況報告を受けたりしている。必要があれば、関係係機関に働きかける。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にしておいて、利用者の希望は食に関する内容が多く、ペットナム実習生が作るペットナム料理を一緒に手伝えることができた。	本人がどのように暮らしたいのか、何をしたいのかを理解するために日々の関わりの中で行動や表情など職員で話し合いながら意向を汲み取っている。食レクやおやつレクの希望など利用者の希望をメニューに取り入れています。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの知人等から得た情報を共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況、精神状態の把握に努めてケアに取り組んでいる。夜勤帯から日勤帯への利用者様の申し送りの徹底でケアに努めている。			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即して介護計画を作成している	本人、家族の思いを大切に、スタッフと話し合いながら介護計画を作成している。毎月のミーティングにてモニタリングを実施している。	本人の状況は刻々と変化している、本人がより暮らししていくために職員で話し合いながら意見をもとに現状に即した介護計画を作成している。機能低下の場合などその要因を分析し、医師に相談し変更を行う。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別記録ケアアリアを使い記録、情報把握、共有に努め介護計画の見直しに活かしている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ育ったニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスに取り組む(ウエブ面談)などの取り組み。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に野菜作りのアドバイスをいただいたり、収穫物をいただいたりしている。施設内の畑での作業に活かして収穫祭を行う。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携医の定期訪問診療(24h体制)を利用いただいているが、希望あれば他医の受診に同行している。	利用者の意向を確認し全利用者提携医が主治医となっている。往診は月2回。24時間オンコール対応ができ緊急時は看護師への相談もできる体制が整っている。主治医による紹介状で整形外科や精神科など専門医への受診もスムーズに行える。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療体制加算を頂き、24hで見えてくれる協力医との連携もある。		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者に情報提供し、退院時は医療地域連携室と情報交換し、早期に退院できるように相談するように努めている。また、家族様の同意が得られれば入院退院時説明に同席している。	入院時は、本人の情報を医療機関に提供している。本人の基本的な情報に加え支援方法など提供している。退院に向けては家族等と協働しスムーズに退院できるように回復状況等情報交換しながら支援している。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と相談しながらしえんしている。施設の看取り方針に沿って話し合っている。	入居時には看取りの在り方について説明をしている。できるだけ早期から説明する機会を設けることで本人、家族、関係者との意向がスレてしまわなような心掛けしている。方針については主治医に相談しながら随時意志を確認しながら取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿った対応をしている。研修したことをマニュアルにまとめ職員に回覧共有している。実践力がつくようにつとめている。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアルに沿った対応をしている。年2回の消防訓練には2階、3階協力し合いながら行っている。	緊急時の対応マニュアルを整備し、それに基ずき対応している。年2回の消防訓練では2階や3階と協力体制を築いている。	

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とフライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやフライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応に気を配っている。人生の先輩として接するよう心掛け排泄時、入浴時等フライバシーが確保できるように配慮している。	年長者として敬意を払い、利用者の権利を尊重した対応を心掛けている。職員が利用者に発している言葉の内容等が、利用者の誇りを傷つけたり、フライバシーを損ねるものになっていないか日常的に職員全員で確認している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉を目標を合わせゆつくり聞くように心掛けている。何をしたいのか、何を伝えようとしているのかを、いろいろ選択肢を示して選んでいただく。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのその時の体調や気持ちに合わせ調整するようにしている。		
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	素敵ですね、似合ってますねなどの積極的な声かけ、利用者様も身だしなみの関心を保てるように働きかける。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回季節に応じて畑でできた野菜をとり、利用者様みんなと一緒に食事を作ってみたり、ベトナム実習生が自国の料理を皆様と作ったり異文化にふれることを楽しむ。	事業所内にある畑で採れた野菜をお味噌汁や料理に活用している。利用者の個々の力を活かして野菜を切った皮をむくなど職員と一緒に取り組んでいる。食レクやおやつレクでは食事への関心を高めるため場面つくりに取り組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	水分量、食事量など摂取量などはあくできるだけように、記録している。特に水分量が足りない方には、アクエリアスなどにして飲んでもらうなど(夏場は、特に)		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人のケアに合わせたケアをしている	毎食後一人一人に必ず口腔ケアを促している。就寝時には、義歯の洗浄、消毒している。		

自己第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、パターンを把握しトイレ誘導している。できる方には極カトイレで排泄していただくように、声掛けしている。	排泄チェック表を作成し、排泄の状況等パターンを把握しトイレでの排泄を大事にしている。一人ひとりのサインを職員が把握し、さりげない支援を心掛けています。尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操出来るだけ決まった時間に声かけトイレ誘導している。水分摂取に注意して自然排便が困難な方には、医師、看護師と相談しながら排便コントロールする。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回から3回入浴できるように調節している。月の第一週には、入浴剤を使い色々な入浴を楽しんでいる。入浴の際には、一人一人の全身チェックもして変化がないかを観察している。	入浴については利用者の意向に沿い柔軟に対応している。週2～3回は入浴することが出来る。入浴を拒む方への対応では、言葉かけや対応などチームメンバー等でひとり一人に合わせた入浴支援を試みている。重度な方では二人体制で支援している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休息をとってもらっているが、出来るだけ日中におきてもらえようとしている。昼夜逆転がないよう心がけている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ずつ服薬リストを作成している。処方通りに服薬できるように、呼名確認、手渡し、手渡しできない方には口に入れるまで行う。錠剤がきちんと飲み込んでいるか確認する。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野がいかにできるように、見守りの中個人にあつたお手伝いをお願いし役割を持ってもらうことで喜びや楽しみのある日々を過ごしていただく。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では、外出がなくなり全くいけなかったが、2類から5類に変わり少しずつ外出できる。季節に合わせて花見を実施する。月に一回ペースで行く。	月1回外出行事を再開します。11月にはコスモスや菊花展への見学を計画している。また近所の公園への散歩や畑での草むしりなどご本人の希望や楽しみごとに合わせ実施しています。歩行困難な方には車いすを利用し職員と1対1で戸外へ出かけるなど積極的に外出を支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金の所持したり使えるように支援している	お金はトラブル回避のため手元にはお財布に事務所で保管している。一緒に買い物する際に可能な限り本人が支払いできるように支援する。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方は、自由にメールのやりとりをしてもらっている。家族様からは、携帯を使えていることが元気の証であると思われる。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりでは利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し生活感や季節感を取入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で個々の居室の行き来などしおしやべりなどして楽しまれ、一緒に廊下を歩いたりと思い思いのことができるように働きかけている。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた家具等を使われる。整理などはお手伝いもさせて頂いたが一緒にするよう心がけている。	居室あるいは泊りの部屋は本人や家族と相談しながら好みものを好きなものを活かし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事が継続して行えるように利用者、スタッフの意見を取り入れ、改善・工夫を加えながら取り組んでいる。			